

四川大地震

被災者の精神ケア必要

A M D A
調整員ら

岡山で帰国会見

中国・四川大地震の被災地で活動していた

国際医療ボランティア A M D A のニティアン

・ウィーラヴァーグ調整員と、岡山大大学院

の汪達紘助教が二十五日、岡山市檜津の A M

D A 本部で帰国会見し、被災者の精神的ケ

アの必要性を訴えた。汪助教は五月下旬、A M D A の要請を受けて四川省中西医结合医院（成都市）で、入院中の被災者らの心理カウンセリングに従事。

「余震が起きるたびに患者の精神的な状態が悪化した。特に子ども

たちは心に深い傷を負って、成都市などに滞在。述べた。

「山は至るところで地すべりがあり、残った建物もいつ倒壊してもおかしくない状況だった」と被害の深刻さを強調した。

A M D A は五月十四日―六月二十日、計約千七百人に診療や心理カウンセリングを実施。今後、



四川大地震の医療支援活動を振り返る汪助教（左）とウィーラヴァーグ調整員

現地の医療機関と情報交換しながら、物資提供も含めた支援の在り方を検討する。（河内慎太郎）